

「未来を描く一年に」

仙北市長 門脇 光浩

新春にあたり、ごあいさつを申し上げます。旧年より故郷を愛し、未来へ向けた礎づくりにご尽力をいただきますこと、心より感謝を申し上げます。

さて昨年の仙北市は、災害対策の強化を進めた一年だったと感じます。先達地区の土石流災害は、六月には砂防事業を竣工いただきました。この災害を教訓として市役所に総合防災課を新設し、同時に各地域へは自主防災組織の設立をお願いしています。仙北市の防災力は着実に高まっています。

明るさ一番の話題は、何と言っても角館高等学校野球部の活躍です。積年の夢が叶いました。角館・角館南の両校が統合し、県南最大校となった記念の年の甲子園初出場でした。全校生徒が球場入りを果たし、一般の応援者とあわせ、アルプスタンドは四千人の大応援団で埋まりました。地元でテレビやラジオ中継に声をからした方々、

また様々な場所でのパブリック・ビューイングなど、本当に大勢の皆さんから、多くのご支援をいただきました。ありがとうございました。

そして国民文化祭です。これまで市民が大切にしてきた、また国文祭をきっかけに取り組んだ数々の事業は、質・量ともに県内最高だったと自負しています。秋の紅葉シーズンと重なったこともあり、市内は大変な賑わいでした。市外で国民文化祭事業に参加した方々も、帰省の前に仙北市に立ち寄る流れができて、広く仙北市をアピールすることができました。関係の皆さんには、本当にご難儀をおかけしました。

まちづくり分野では、町家プロジェクトの着工、角館総合病院改築事業の着工、株ツムラの生薬栽培事業着手、誘致企業用地造成着手、田沢湖クニマス未来館の建設決定、国道一〇五号の優先整備決定など、進

展が見られるものも多かったわけですが、誘致企業に関して、先般の議会に提案した追加の土地の取得議案と造成工事費の補正予算については、残念ながら同意をいただけませんでした。しかしながら議会の判断は、企業誘致そのものに反対したものではありません。進出条件が明確になつていない諸課題に対し、市として早急に交渉に当たるようにとの叱咤激励と受け止めます。

既に未確定案件の整理や交渉日程の調整を話めています。県や金融機関と連携を図り、市と企業あわせ四者で事業に取り組む決意です。

このような経緯があつての今年です。しっかりと未解決の行政課題に挑む一年にしたいと考えています。次期総合計画（十ヶ年計画）の策定作業では、市民の皆さんから意見をいただき、少子高齢と地域消滅への対抗策を探らなければなりません。不可欠な要件となる自主財源の確保手法、産業振興や所得政策、統合庁舎と公共施設の高度活用、定住促進、ふるさと教育などは、様々な道筋が考えられますが、どの道を進んでも苦難の連続になることは確実です。政府が打ち出した地方創生は、地方にバラ色の

将来を約束するものではありません。努力を怠らず、常に市民と行政が協働で汗を流す姿を示さなければ、国だって県だって、手を差し伸べてはくれないのです。

さて、今年も市内では多彩な行事が繰り広げられます。「二〇一五FISフリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会」、東北三大さくらサミット、戸沢サミット、東北ダム湖サミット、ラドンラジウム温泉健康サミットなど、大規模大会やサミットが目白押しです。国際交流・スポーツ交流も多数予定されていることから、まさに交流拠点都市・仙北市の面目躍如と言った一年になります。

この九月で、仙北市は誕生十周年を迎えます。これまでの十年をしっかりと検証し、ご尽力いただいた方々に感謝しながら、改めることを恐れず、失敗を非難せず、未来の仙北市に走り出すスタートラインに立つ思いで、十周年記念事業に取り組めます。

職員一同、新年が佳い一年となりますよう、市民の皆さんに少しでも幸せを感じてもらえるよう、初心に立ち返り職務に励みます。どうかご支援とご指導をお願いします。